

平成 13 年 5 月 7 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海鉦区 試掘第二号井テスト結果について

インドネシア石油株式会社は、同社子会社インペックス北カスピ海石油㈱を通じて探鉦事業を推進しているカザフスタン共和国 北カスピ海鉦区において、2000 年 10 月よりカシャガン構造の西部に試掘第 2 号井「カシャガン・ウエスト-1」(Kashagan West-1)による掘削作業を実施し、今般、産出テストを実施した結果、日産 3,397 バレルの原油(API 42° から 45° の軽質原油)の産出を確認した。

本坑井は、既に昨年 7 月、原油を発見している試掘第 1 号井「カシャガン・イースト-1」(Kashagan East-1)に続くカシャガン構造に 対する 2 番目の試掘井であり、カシャガン・イースト-1 から 40km 離れている。

本プロジェクトは、当社を含む日米欧 9 社の国際コンソーシアムがカザフスタン共和国と締結した生産分与契約にもとづき推進している 探鉦・開発事業である。

コンソーシアムは、これまで得られたデータより、本プロジェクトの更なる推進への良い手ごたえを感じており、今後、同構造の評価のため評価井の掘削作業を実施することとしている。

※) 補足説明

1.北カスピ海鉦区は、東部約 4,300km²、西部約 1,275km² (合計約 5,575km²) の 2 つのブロックよりなり、今回発見のあったカシャガン構造は、カザフスタン共和国アティラウから南東約 75km のカスピ海域に位置する水深 3～7m の東部ブロックにある。

2.本鉦区には、石油・ガスを胚胎する可能性の高い複数の大規模な構造が存在しているが、その中でも最大規模のカシャガン構造の東部で試掘第 1 号井「カシャガン・イースト-1」(Kashagan East-1)の掘削を行い、2000 年 7 月に同坑井で産出テストを実施した結果、日産 3,774 バレルの原油並びに日産 706 万立方フィートの天然ガスの産出を確認した。

3.試掘第2号井「カシャガン・ウエスト-1」(Kashagan West-1)は、水深7mの地点で掘削され、掘削深度4,982mで掘り止めた。産出テストを実施した結果、1/2インチチョークで日産3,397バレルの原油並びに日産759万立方フィートの天然ガスの産出を確認した。

4.インドネシア石油(株)は、1998年9月に本鉱区の権益の1/14をカザフスタンの国営石油会社KCS (Kazakhstan Caspi Shelf) 社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ海石油(株)を通じて取得し、欧米コンソーシアム (British Gas、BP、ENI、ExxonMobil、Phillips Petroleum、Shell、Statoil、Total Fina ELF) の一員となった。

なお、同鉱区でのオペレーターは、今般、共同操業会社であるOKIOCより伊国ENIに交替した。

5.インペックス北カスピ海石油(株)は、1998年8月に設立され、石油公団の投融資を受けるとともに、石油資源開発(株)および三菱商事(株)からの出資を受けている。(現在の資本金は、250.2億円、出資比率は、石油公団：50%、インドネシア石油：45%、石油資源開発および三菱商事：各2.5%)

6.なお、カシャガン構造全体の埋蔵量は、今後の探鉱・評価作業の結果を待つ必要がある。

